

各 位

2019年3月20日

株式会社イオンファンタジー  
代表取締役社長 藤原 信幸  
(コード番号 4343 東証第一部)  
常務取締役 グローバル管理統括兼  
リスクマネジメント担当 新田 悟  
(電話 043-212-6203)  
当社の親会社 イオン株式会社  
取締役兼代表執行役社長 岡田 元也  
(コード番号 8267 東証第一部)

業績予想の修正に関するお知らせ

2019年2月期の連結業績予想につきまして、2018年4月11日付当社「2018年2月期決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました業績予想を、下記の通り修正いたしますので、お知らせいたします。

記

1. 連結業績予想の修正

2019年2月期(2018年3月1日～2019年2月28日)

(単位:百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	77,700	6,600	6,000	3,300	167円45銭
今回修正予想(B)	74,250	4,650	4,300	1,850	93円82銭
増減額(B-A)	△3,450	△1,950	△1,700	△1,450	
増減率(%)	△4.4	△29.5	△28.3	△43.9	
(ご参考)前年同期実績 (2018年2月期)	72,174	5,970	5,598	2,986	151円53銭

2. 修正の理由

2019年2月期は、第3四半期連結累計期間において国内事業、中国事業が大幅な減益となったため、年間最大の繁忙期である第4四半期において以下の対策を実施いたしました。

国内事業はメダルゲーム機の新規導入やプライズ部門での人気YouTuberとのコラボ景品の展開及び数量の拡大等により、計画数値を確保いたしました。また、中国事業は単価の回復やインドアプレイグラウンドの活性化により第4四半期の既存店売上伸び率は4.0%増と大きく改善し、それぞれ第4四半期会計期間の計画数値は確保いたしました。第3四半期までのマイナスをカバーするまでには至りませんでした。

一方、不採算店舗の閉店(国内22店舗、海外32店舗)に伴う損失4億30百万円や、不振店の店舗減損損失2億50百万円を計上するなど、将来の柔軟で機動的な経営に向けた前向きな処理を実施いたしました。

これらの結果、当期の連結業績は、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益が各々前回予想を下回る見込みとなりました。

※上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上